

Arterial Switch Operation With and Without Coronary Relocation for Intramural Coronary Arteries

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 腰山, 宏 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032081

主論文の要旨

Arterial Switch Operation With and Without Coronary Relocation for Intramural Coronary Arteries.

壁内走行冠状動脈における冠動脈移植法の違いによる動脈スイッチ手術の成績

東京女子医科大学心臓血管外科学教室
(指導：山崎健二教授)

腰山 宏

The Annals of Thoracic Surgery 第 102 巻, 第 4 号, 1353 頁～1359 頁
(平成 28 年 10 月発行) に掲載

【要 旨】

動脈スイッチ手術は大血管転位症に対する標準術式であり、良好な成績を示している。しかし、冠動脈が走行する症例や冠動脈が壁内走行をする症例は稀ではあるが、重要な危険因子となっている。当院では術式を工夫することによりその成績の向上に努めてきた。通常動脈スイッチ手術は冠動脈を大動脈から切り離し、肺動脈へ移植することにより冠動脈移植を行っている。しかし、同じ方法で壁内走行する冠動脈を移植した場合、冠動脈の屈曲や狭窄を生じやすいため急性心筋梗塞となる可能性がある。そこで当院では冠動脈を切り取らず、肺動脈と冠動脈の間に血流のトンネルを自己大動脈壁で作成することにより動脈スイッチ手術を行う方法を施行してきた。自己大動脈壁を flap としてトンネルを作成する術式は世界でも当院だけであり、その遠隔成績は今後の心臓血管外科の発展に寄与すると考えられる。今回、当院での壁内走行冠状動脈を呈する大血管転位症の動脈スイッチの遠隔成績を検討した。その術式の遠隔成績は良好であり、複雑な冠動脈病変を有する大血管転位症での動脈スイッチ手術における冠動脈移植の方法として有効な方法と考えられた。